

4 国有林野の活用

(1) 国有林野の活用の適切な推進

国有林野の活用に当たっては、公益的機能の発揮等との調整を図りつつ、農林業を始めとする地域産業の振興、住民の福祉の向上、再生可能エネルギーの利用による発電等に寄与するため、地方公共団体、地元住民等に対して国有林野の貸付けや売払い、共用林野の設定等を行っています。令和5(2023)年度末現在で約7.2万haの貸付け等を行っており、農地や採草放牧地が約1割、道路、電気・通信、ダム等の公用、公共用又は公益事業用の施設用地が約5割を占めています。また、東日本大震災からの復興のため、汚染土壌の仮置場等として、国有林野の無償貸付け等を引き続き行っています。



国有林野の活用

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/gaiyo/kasituke/kokuyuurinyanokatsuyou.html

表－１９ 国有林野の用途別貸付け等の状況

(単位：ha)

区 分	(参考) 令和３(2021) 年度	(参考) 令和４(2022) 年度	令和５(2023) 年度
農耕・採草放牧地	10,022(14)	9,983(14)	9,973(14)
道路敷	14,525(20)	14,584(20)	14,593(20)
電気・通信事業用地	17,063(24)	17,307(24)	17,385(24)
ダム・堰堤敷	3,441(5)	3,423(5)	3,381(5)
森林空間総合利用事業用地	9,089(13)	8,979(13)	8,893(12)
その他	17,286(24)	17,355(24)	17,323(24)
合 計	71,425(100)	71,631(100)	71,547(100)

注１：面積は、各年度末現在の数値である。

２：貸付け等には、貸付け、使用許可・承認を含む。

３：() 書は、合計に占める用途別の比率(%)である。

４：計の不一致は、四捨五入による。

５：令和３(2021)年度及び令和４(2022)年度の「電気・通信事業用地」の数値は、集計に誤りがあったため、令和３(2021)年度及び令和４(2022)年度の公表時の数値と異なる。

表－２０ 国有林野の用途別売払い状況

(単位：ha)

区 分	(参考) 令和３(2021) 年度	(参考) 令和４(2022) 年度	令和５(2023) 年度
所管換・所属替	23 (51)	63 (85)	206 (80)
公用・公共事業用	19 (42)	9 (12)	50 (19)
産業振興用	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	3 (7)	2 (3)	1 (0)
計	45 (100)	74 (100)	257 (100)

注１：売払いには、無償の所管換・所属替・譲与を含む。

２：() 書は、計に占める用途別の比率(%)である。

３：計の不一致は、四捨五入による。

(2) 公衆の保健のための活用の推進

国有林野事業では、優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林 571 か所を「レクリエーションの森」として国民の利用に供しており、令和 5 (2023) 年度は、延べ約 1.1 億人の利用がありました。

また、平成 29(2017) 年度に、全国の「レクリエーションの森」のうち、特に景観等の優れた 93 か所を「日本美しい森 お薦め国有林」として選定し、多言語による情報発信や重点的な環境整備等に取り組んでいます。

さらに、「レクリエーションの森」と国立公園が重複している箇所のうち、知床、日光、屋久島等を重点地域等とし、環境省との連携を強化して、保護と利用の両立を図りながら利用環境の整備を推進するなど、更なる利便性や安全性の向上に取り組んでいます。

引き続き、利用状況等を踏まえつつ、快適な利用環境が確保できるよう、地域と連携した管理体制の充実や歩道の整備等を進めていきます。

表－２１ レクリエーションの森の現況及び利用者数

レクリエーションの森の種類	箇所数	面積 (千 ha)	利用者数 (百万人)	代表的なレクリエーションの森(都道府県)
自然休養林	79	94	21	たかおさん 高尾山(東京)、あかさわ 赤沢(長野)、つるぎさん 剣山(徳島)、やくしま 屋久島(鹿児島)
自然観察教育林	87	22	14	しらかみさんち 白神山(岐阜)、あんもん 暗門(青森)、きんかざん 金華山(岐阜)、あかさい 赤西(兵庫)
風景林	143	62	47	えりも(北海道)、あしのこ 芦ノ湖(神奈川県)、あらしやま 嵐山(京都)
森林スポーツ林	26	3	3	つくばさん 筑波山(茨城)、たきごし 滝越(長野)、だいら 扇ノ仙(鳥取)
野外スポーツ地域	162	49	20	てんぐやま 天狗山(北海道)、うらばんだい 裏磐梯デコ平(福島)、むこうざかやま 向坂山(宮崎)
風致探勝林	74	13	7	ぬくみ 温身平(山形)、こまがたけ 駒ヶ岳(長野)、にじ 虹の松原(佐賀)
合 計	571	243	112	

注：箇所数及び面積は令和 6 (2024) 年 4 月 1 日現在の数値であり、利用者数は令和 5 (2023) 年度の参考値である。

事例 24 組織の垣根を越えた戸隠^{とがくし}森林植物園の開園準備 (中部森林管理局 北信森林管理署)



- ・長野県長野市 戸隠^{とがくしやま}山国有林
- ・(左) 手作りの木橋を設置する様子(令和5(2023)年4月)
- ・(右) ウッドチップ敷設後の様子(令和5(2023)年4月)

「日本美しの森 お薦め国有林」に選定された「戸隠・大峰自然休養林^{とがくし}」内にある戸隠森林植物園は、戸隠山の山麓標高1,200mの高原地帯に位置する約71haの広大な植物園で、様々な植物や野鳥を観察することができます。昭和43(1968)年に設置されて以降、多くの地域住民や観光客が訪れてきました(例年4月開園、11月閉園)。

北信森林管理署では、令和5(2023)年4月に関係行政機関や地域のボランティア団体、オフィシャルサポーターとして協力する企業等と連携し、開園に向けた準備作業を実施しました。当日は総勢約70名が参加し、オフィシャルサポーターから提供された資材を活用して、園内の遊歩道の補修整備や手作りの木橋の新設、ウッドチップの敷設や看板標識等の設置を行いました。

今後も地域の関係者と連携しながら活動を継続し、植物園の快適な利用環境の整備に取り組んでいきます。

レクリエーションの森

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/index.html



事例 25 白神山地の新たなシンボルツリーの周辺整備と活用

(東北森林管理局 米代西部森林管理署・藤里森林生態系保全センター)



- ・秋田県山本郡藤里町 藤琴沢国有林
- ・(左) 新たなシンボルツリー「^{だけだい}岳岱大ブナ」(令和5(2023)年9月)
- ・(右) 新たなシンボルツリー「こまいぬシナノキ」(令和5(2023)年5月)

白神山地内のレクリエーションの森「^{だけだい}岳岱自然観察教育林」において、来訪者に長年親しまれてきた「400年ブナ」が倒伏していることが確認されました。このため、東北森林管理局及び藤里町は、白神山地の新たなシンボルツリーとして、ブナとシナノキの巨木にそれぞれ「^{だけだい}岳岱大ブナ」、「こまいぬシナノキ」という愛称を付け、令和4(2022)年12月に公表しました。

令和5(2023)年5月には、東北森林管理局、秋田白神ガイド協会、藤里町の三者協働により、「岳岱大ブナ」への新たな遊歩道と樹木を保護するための侵入防止線の整備を行いました。

さらに同年6月には、藤里町主催の白神山地世界自然遺産登録30周年記念イベント「春の白神ウィーク2023」の一環として、新たなシンボルツリーの公式測定が行われ、その結果、「岳岱大ブナ」は幹回り401cm、樹高31.6m、「こまいぬシナノキ」は幹回り473cm、樹高30.4mと公表されました。

この様子がテレビニュースや新聞記事で広く世間にPRされたことから、令和5(2023)年度の岳岱自然観察教育林への入山者数は前年度の約1.5倍となりました。引き続き、地域の関係者と連携し、自然観察教育林の活用や適切な管理に努めていきます。



おだみやま
小田深山溪谷を流れる黒川

(撮影地：愛媛県喜多郡内子町 愛媛森林管理署 小田深山国有林)